

## 通過儀礼・年中行事から見た町家の伝統的生活領域 に関する研究（梗概）

前野 崑

### 1. はじめに

本研究は、現在まで伝えられて来た伝統的な生活民俗のなかで、人間の一生を支える通過儀礼・年中行事が住まいのなかでどのように行なわれて来たかを調査・記録し、同時に住まいの本来的な役割を明らかにしようとするものである。

具体的には岡山県倉敷市下津井地区及び小田郡矢掛町に残る町家で昔から行なわれて来た通過儀礼・年中行事のされ方から①各部屋の役割 ②使い分け ③建物の形式による相違 ④地域差 ⑤通過儀礼・年中行事の相互関係について考察することにより、本来町家の諸空間が果して来た役割を明らかにし、同時に町家の空間構造についても考察しようとするものである。

従来、伝統的町家の空間に関して、通過儀礼・年中行事などの生活民俗の面から1戸毎の事例についてまとめて調査・研究された例は希であるが、この方法で研究を継続、発展させることにより次の成果が期待される。

- ①消滅しつつある伝統的すまいと、そこに伝えられて来た生活民俗の記録化
- ②町家の発展形式、町家と農家の空間構造の相互関係、地域差などの解明
- ③外部空間、集落全体の伝統的生活領域の解明

### 2. 研究の方法

#### 2-1 調査対象

調査対象家屋の選定に当たって次のことを配慮した。町家の建物は旧状を良く留めた伝統的平面で、改築されている場合は復元が可能なこと。居住者はそこに長く住み続けて来ていて、戦前を記憶している年齢層の人が住んでいること。

#### 2-2 建物調査

実測調査により現状の平面を作成し、それを元に復元平面を作成した。復元に際してはヒアリングと痕跡調査によったが、下津井地区の建物については、明治17年「屋敷坪書」に記載されている配置図を照合した。矢掛地区については「名寄張」により各棟別の建設年代を確認した。

#### 2-3 通過儀礼・年中行事の調査

建物の現状及び復元平面を基にして、直接面接により聞きとりを行ない記録した。調査に際しては、1回の聞きとりについて調査員2～3名を要し、2～3時間を限度とした。必要に応じ補足調査を行なった。調査対象はその家の年長者を原則としたが、親子2代に渡って聞き取りが得られた例もある。

生活民俗を収録する時期の下限は、伝統的な社会構造がまだ保たれていた昭和30年代とした。上限は大正初期にまでさかのぼることができた。

### 3. 調査の経過

昭和61年7月	矢掛地区予備調査
〃 9月	同建物現況調査、復元調査、通過儀礼・年中行事調査
〃 12月	下津井地区復元調査、通過儀礼・年中行事調査
昭和62年2月	両地区補足調査
〃 8月	両地区通過儀礼・年中行事調査
〃 9月	矢掛地区補足調査

### 4. 調査の組織

主査	前野 崑	東京芸術大学教授
委員	中村精二	東京芸術大学非常勤講師
〃	丸尾 聡	日本能率協会総合研究所
〃	横山芳一	東京芸術大学大学院
〃	志村直愛	東京芸術大学大学院
〃	手嶋尚人	東京芸術大学大学院
協力	村松祿朗	東京芸術大学大学院

調査・研究に際して地元の鶴藤鹿忠氏（川崎医療短大民俗学）、山本慶一氏（下津井中学校 郷土史）、乗本辰夫氏（倉敷市役所 文化財）、矢掛町教育委員会の御指導、御協力をいただいた。

### 5. 対象地区の概要

下津井地区は瀬戸内海に面した港湾沿いの集落で、江戸から明治にかけて北前船の中継地として発展した町である。集落の前面には海が開け背後には山が迫っている。そのため中央の通りをはさみ山側の敷地は海側の敷地よ

り小さい。建物間口については、全体に狭いものが多く、3.5間以下のものが8割をしめている。また主屋の延床面積の平均は約26坪程度で、8割以下は40坪に満たない。建物の屋根は本瓦葺きで、通りに対して平入りの形式である。(図1 A, B)

矢掛地区は小田川沿いの集落で、旧山陽道の矢掛宿である。国の重要文化財の本陣、脇本陣を持つ。旧山陽道沿いに230軒以上が町並をつくっている。地割は元禄時代と同じ短冊型ではほぼ当時と同じ間口である。

建物の間口は2～6間の間に分布しているが、2間間口のもの最も多く、3間間口、4間間口のものそれに続いている。全体では4間以下のものが9割以上を占めている。

配置の奥行は深く30～50間に及び、60間に達するものもある。屋根は平入り、妻入りの両形式が混在しているが妻入りがやや多い。(図1 A, C)

## 6. 調査の結果

### 6-1 調査建物の概要

下津井地区で37軒、矢掛地区で39軒、合計76軒について建物平面の実測調査、復元調査を実施した。タイプ別内訳を表1 A, Bに示す。

下津井地区の調査例37軒の列室型平面構成を見ると1列型平面(2～4室)が24例で80%を占め、2列型は9例で20%、その外は3列型、農家型である。

矢掛地区の調査例39軒の列室型平面構成を見ると1列型平面が33軒で86%を占め、そのうちの半分以上が1列3室型である。2列型は4例あり奥行方向に2～4室がある。(表1 A)

これらを座敷の数(床の間、置床のある部室の数)により分類すると、下津井地区では1座敷が最も多く、2座敷、次いで座敷なし、3座敷の順となる。(表1 B)

矢掛地区では、2座敷が最も多く(12例)、1座敷、3座敷がこれに次いでいる。また4座敷を持つものもある。座敷を持たない例は少ない。

座敷の位置は、オクノマ、主屋2階、ヒヤ(離れ)にあるが、下津井ではオクノマが座敷でなくガイドコロの場合も多い。

家屋の成立年代では、下津井地区で比較的古い建物が多く採集された。

年代別内訳は次に示す。

〔下津井地区〕

江戸後期(推定を含む)11, 明治前期9, 明治中期5, 後期2, 大正3, 不明7

〔矢掛地区〕

江戸期0, 明治前期7, 明治中期4, 後期7, 大正8, 昭和初期1, 不明10

タイプ別の調査家屋の代表例を図2に示す。



図1 A 対象地区の位置



図1 B 下津井地区



図1 C 矢掛地区

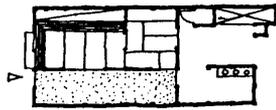
表1 A 平面型式別内訳

地区 平面図	下津井	矢掛
1列2室	8	3
1列3室	13	18
1列4室	3	11
1列5室	0	1
2列2室	7	1
2列3室	2	2
2列4室	0	1
3列3室	1	0
農家型	(3)	(2)
合計	37	39

表1 B 座敷数別内訳

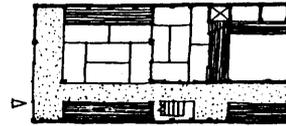
地区 座敷数	下津井	矢掛
座敷無	3	2
1座敷	16	9
2座敷	9	12
3座敷	3	9
4座敷	1	4
5座敷	1	0
6座敷	1	1
農家型	(3)	(2)
合計	37	39

1列2室



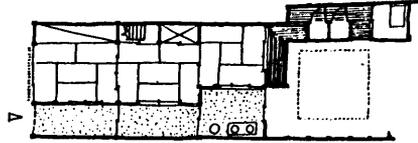
氏家家  
江戸末期  
切妻本瓦  
平屋

1列2室



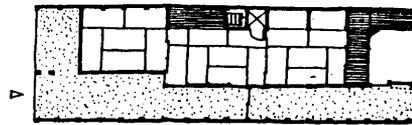
川崎印房  
不明  
切妻本瓦  
厨子2階

1列3室



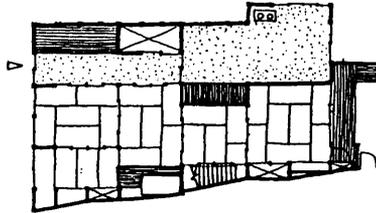
山田家  
明治初期  
切妻本瓦  
本2階

1列3室



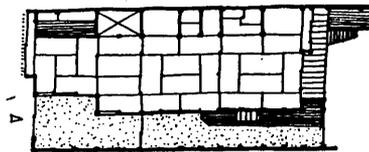
新田製麵所  
明治32年  
入母屋本瓦  
厨子2階

1列4室



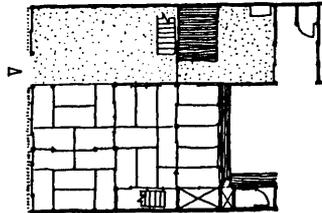
三宅家  
江戸末期  
切妻本瓦  
厨子2階

1列4室



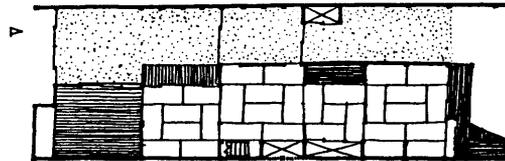
筒井家  
明治14年  
入母屋本瓦  
本2階

2列2室



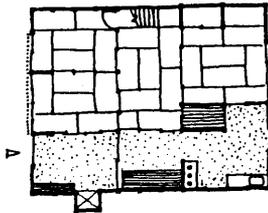
鍋島商店  
明治中期  
切妻本瓦  
本2階

1列5室



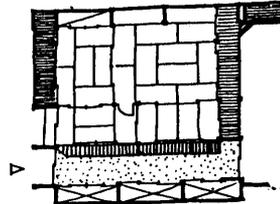
池田時計  
メガネ店  
江戸末期  
切妻本瓦  
厨子2階

2列3室



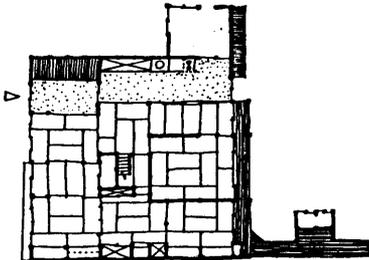
山下家  
江戸末期  
切妻本瓦  
本2階

2列2室



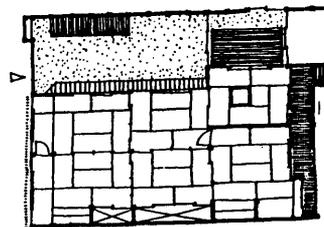
赤沢家  
昭和7年  
切妻本瓦  
厨子2階

3列3室



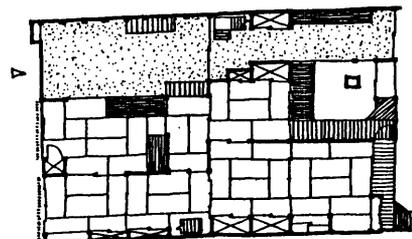
中西家  
明治中期  
切妻本瓦  
厨子2階

2列3室



齊藤家  
明治14年  
入母屋本瓦  
厨子2階

2列4室



石井醤油店  
明治初期以前  
入母屋本瓦  
厨子2階

左列 矢掛地区  
右列 下津井地区

図2 タイプ別調査家屋代表例

### 6-2 通過儀礼・年中行事の概要

採集された通過儀礼・年中行事は次の様である。(文中(矢)は矢掛地区,(下)は下津井地区を表わす。)

#### (1) 通過儀礼

〔生者の通過儀礼〕

安産祈願, 帯祝い, 出産, 後産, 名付け, お七夜, 初宮参り, 初ピナ, 初ショウブ, 初誕生, ヒモ落シ, 前髪下し, 結納, 婚礼, 披露, 厄年, 年祝

〔死者の通過儀礼〕

臨床、死体安置、湯灌、通夜、出立の膳、出棺、葬式、忌明、野送り、新仏供養、新盆、年忌法要

〔年中行事〕

正月、彼岸、若水取り、七夕、盆の飾り、仏迎え、水棚、ナーモーデン(盆行事)、盆踊、仏送り、講(大師講、無尽講、百手講)、伊勢大神楽、お接待

町家の空間との関係を持つものについて、これらの概要を以下に示す。また図3にその典型を示す。

〔誕生儀礼〕現在でも広く行なわれている。

〈出産〉ヒヤ(離れ)、オクノマなど隔離された場所で行なわれる。産湯を産室の床下に捨てる例もある。

〈後産〉土器(かわらけ)や壺に入れ入口の敷居の内か外に埋める。縁の下や床下に埋める例もある。子どもは先に踏むものを恐れると云って、父親が先に踏む。

〈名付け・祝の膳〉三宝の上に数種の名を記した紙でくじを作り、剣先でついて決める。決まった名は神棚に貼る。また祝の赤飯と一諸に近所に届け、台所のカマドの近くの良くみえるところに貼る。座敷で祝う例もある。

〔養育儀礼〕現在も盛んに行なわれている。

〈初宮参り〉生後7日や33日目に荒神に、110日や120日目に氏神に参る。お帳つけ、モモカ参りなどという。

〈初ビナ〉家の門口でヒナ菓子を配る。ヒナ荒しといって沢山の子供がもらいに集まる。現在でも盛んである。昔は飴、白酒を配った。2階ザシキにヒナ人形を飾る。昔は初ショウブの時には新粉細工を配った。

〈初誕生〉宮参りをし、オクノマやナカノマで祝う。タジョウモチといい一升餅を背負わせ歩かせる。箕の中に入れた道具を選ばせる占いをナカノマなどで行なう。

〈ヒモ落シ〉3歳の11月15日に宮参りをし、座敷で赤飯、魚の膳で祝う。

〔成年儀礼〕現在は殆んど行なわれていない。

〈前髪下し〉紋付姿で荒神、氏神を廻り座敷で祝う。

〈婚礼〉昭和30年代から結婚式場で行なわれるようになった。戦中、戦後は簡略に行なわれた。

仲人・結納—ヒヤ(離れ)の座敷の床の間などに仲人が結納を納め、膳が出される。披露の場所と離れて行なわれる。

嫁入り—生家の格子を外したところから出立し、婚家にも格子を外したところから嫁入りする。嫁入りは夜に行なわれ、提灯をつけて迎える。家に入ってからはずいぶん参る。

挙式—披露とは別の場で行なわれたり、時間を違わせたり、屏風で区切ったりして区別をする。

〔厄年、年祝儀礼〕現在でも盛んに行なわれている。

〈男厄・女厄〉男厄25、42歳、女厄19、33歳の厄年に年の数より1つ多い数の餅をつくりぜんざいにして配る。そのうち1つの餅は、町の辻に置いてくる。

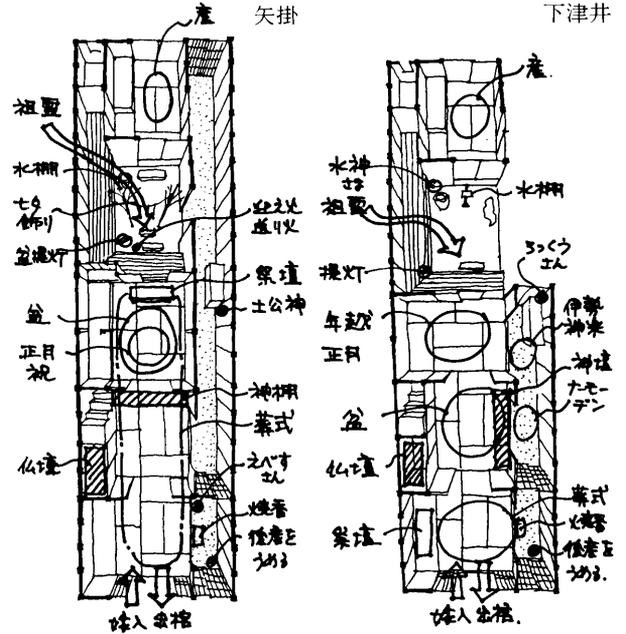


図3 通過儀礼・年中行事の行なわれ方

〈年祝〉61、77、88歳に祝いをする。座敷で行なう。42は自分で、61は子供が祝うと云う。

〔葬儀儀礼〕昔のやり方がかなり残されているが、戦後火葬が普及してから、葬列などが簡略になった。

〈臨床・遺体安置〉息を引き取ると北枕にし、オクノマに移動する。枕めし、枕団子を備える。

〈湯灌〉オクノマでされる。ユーカーンと呼ばれる。死出の衣装は別室で縫われる。

〈通夜〉オクノマ等に祭壇がつくられ、オカンキ(看経)が行なわれる。

〈出立の膳〉タチハという死者との食い別れの儀式。元はにぎり飯に五品位の膳で、出棺の前に各人が漸次食べる。

〈出棺〉格子を外し、三回柩を回してから出棺する。門口でワラ火を焚き、茶碗を割る。祭壇を取り外した後は(壇上げ)掃木で掃き清める。

〈葬列〉火葬となってからは行なわれなくなったが、家の門口から墓地の入口迄供物などを持って行列する。

〈清め〉墓から帰ると門口で、箕に入れたヌカと塩で清める。その晩はオカンキをする。

〈忌明け〉忌中は門口と神棚に白い札を貼る。

〈新仏供養〉死亡してから7日間は毎日墓に参る。以後7日毎に49日迄供養する。以後1年(ムカワリ)3、7、13、33年目に家で年忌法要をする。

〈新盆〉新仏は3年の間家の縁側や、集落内で行なわれる盆踊りの場所に灯籠を吊って迎え、供養する。

(2) 年中行事

〈正月〉暮のうちに墓の掃除をし、花を飾る。歳神棚を神主が拜みに来る(矢)。床の間の前に祭壇を設け歳神を迎える家もある。正月は古くは盆と同じ祖霊を迎える日

であった。年越や元旦の食事はガイドコロやオクノマで行なわれる。

〈七夕〉コニワ（坪庭）に笹竹を2本立て朝露を集めてすった墨で願いごとを書く。終わると笹竹を川に流す（矢）。井戸端に七夕棚を設ける例がある（矢）。また七夕には井戸替えが行なわれる。

#### 〈盆行事〉

盆の飾り一座敷に精霊棚を出して飾る。床の間にも飾る。仏迎え一前もってきれいにしておいた墓を掃除し、竹筒に茶、榊、しきびを立てる。下津井では迎えに火は焚かず、夕方墓から背負った格好をして迎えてくる。矢掛ではコニワに迎え火を焚き、オクノマの縁に灯籠を吊す。水棚（施餓餓棚）—コニワ、裏口、裏庭に水棚を設け、施餓餓をする。表口に設ける場合もある。ハスの葉をしき細の目切りのナスと米をのせる。ミソハギを立てる。ナーモーデン（下）—太鼓をかついで家々を廻ってたたく。盆の棚の前の通りニワで行なわれる。

盆踊り一部落毎に盆踊りをする。新仏の家の灯籠を吊し位牌を背負って霊と共に踊り供養する（下）。

講—講中は葬式組と同じだが、下津井では大師講が多く行なわれる。ザシキの床の間に十三仏、不動明王、弘法大師の三幅の軸を掛けオカンキ（看経）をした後、膳が出される。

矢掛では百手講と呼ばれ近隣の荒神講が行なわれる。三宝荒神の軸を2階などの座敷に一年間飾っておく。伊勢大神楽—七月ごろお札をろっくう神に献上に来る。ろっくう神の前の通りニワでしし舞いが行なわれる。狭い家では門口で行なう（下）。

#### 6-3 通過儀礼・年中行事の行なわれる場所

採集された通過儀礼・年中行事から出産、祝、婚礼、講、死、葬儀、法事、正月、盆、祭についてその行なわれる場所を示す。（表2A、B）

これらの通過儀礼・年中行事は、決まった場所で行なわれるものとそうでないものがある。それは座敷数の違いや、平面型式の違いとは関係がない。

葬式、盆、正月、婚礼はどの家でも決まった場所で行なわれ、場所との結びつきが強い。例えば、正月、盆は主屋1階で、婚礼は主屋2階で行なわれる等である。

一方、講や法事は、座敷の位置や、数によって異なった場所で行なわれ、場所との結びつきが弱い。

これらの関係を下津井、矢掛両地区で比較してみると、儀礼・行事の行なわれる階に違いは見られないが、行なわれる部屋や、行なわれ方に違いが見られる。

以上の関係を儀礼・行事別に示す。

〔葬式〕どの町家でも主屋の1階で行なわれるが、両地区で行なわれ方に違いがある。

下津井地区ではどの型式の町家でもミセノマを使って行なわれる。一列型平面では祭壇をミセノマの壁側に設

け、通りニワに焼香台を置きそこで焼香をする。2列型平面の町家では、道路側の2室のミセノマとミセノマのオクを続けて使用する。

一方矢掛地区では、どの型式の町家でも、1階の全室を開け放って行なわれる。祭壇はオクノマのコニワ（庭）側に設けられ、焼香台はミセノマに置かれる。焼香はミセノマの前の通りニワか、ミセノマの格子を外して行なわれる。オクノマには僧侶、ナカノマには親族が坐る。

〔婚礼〕主に主屋2階の座敷で行なわれるが、2階に座敷がなく、主屋の1階オクノマが座敷の場合にはそこで行なわれる。三々九度等の挙式の儀礼は座敷で行なわれ、隣りの部屋と続けて披露宴が行なわれる。

矢掛地区では主屋内に床の間設備がない町家では1階ではなく2階の居室で行なわれる。

また3つ以上の座敷を持つ町家では、主屋2階の座敷で挙式を行なった後、場所を移動してヒヤ（離れ）の座敷で披露宴が行われる。

〔法事〕主に主屋1階の座敷で行なわれる。主屋1階に座敷がなくヒヤに座敷がある場合にはそこで行なわれる。主屋2階の座敷のみの場合そこで行なわれることはない。矢掛地区ではオクノマの座敷で行なわれるが、主屋内に座敷がなくヒヤに座敷があるとそこで行なわれる。また2階の座敷と離れの座敷の2つの座敷がある場合は、2階の座敷で行なわれる。

〔出産〕主屋1階かヒヤの1階で行なわれる。2階では行なわれない。下津井地区では1列型平面の町家ではナカノマで、2列型平面の町家では奥の列のオクノマで行なわれるが、ヒヤがあるとそこで行なわれる。座敷の数とは関係しない。

矢掛地区では、主に座敷であるオクノマで行なわれる。座敷数、平面型式とは関係がない。また、1例のみだが、離れに炉が切られ、専用の産室が設けられている町家がある。

〔正月、年取り〕元旦の食事は、日常とは別に、主屋1階で、床の間がないナカノマなどの部屋で行なわれる。下津井地区では主屋1階に座敷がある場合、ナカノマで行なわれるが、オクノマが座敷でない場合はそこで行なわれる。矢掛地区でもほぼ同じ傾向が見られるが、座敷になっているオクノマでも行なわれる。

〔盆行事〕どの町家でも主屋内、離れの1階で行なわれるが両地区での使われ方は異なる。

下津井地区では主屋1階オクノマが座敷になっている場合はナカノマで、そうでない場合はナカノマ又はオクノマに設けられている仏壇に供物、灯籠を飾る。精霊棚がある場合はオクノマの床に設けるが、オクノマに床のない場合は、ミセノマに設ける。

一方、矢掛地区では、ナカノマと床のあるオクノマの座敷の2室のみが使われる。床の間に祭壇を設け仏壇か



座敷で、1階のみの座敷の場合はそこで行なわれる。矢掛地区では、1階オクノマのみに座敷がある場合はそこで行なわれるが、2階にも座敷がある場合は、どちらかに分かれる。

〔その他〕

〈祭〉矢掛ではかつて祭の時ミセノマの格子を外し酒、スシなどをふるまった。

〈祝〉例数が少ないが、オクノマ、2階座敷が使われる。

〈死〉例数が少ないが死を迎える場所は定まっていない。死後はオクノマの座敷に移される。

## 7. 部屋の使い分けの関係と、通過儀礼・年中行事の相互関係

### 7-1 座敷数による部屋の使い分け

通過儀礼・年中行事の行なわれる場所や、行なわれ方は、町家に設けられている座敷の数や、それらの位置の違いにより異なる。さらに、それには地域差がある。例えば、1列3室型平面の町家であっても、座敷が主屋1階のオクノマにあれば、儀礼・行事は全て1階で行なわれるが、主屋2階に座敷がある場合には、婚礼や講は2階に分離して行なわれるという違いである。また座敷の数が複数の町家では、婚礼が行なわれる場所は、2階やヒヤの座敷に固定され、さらに挙式の場と披露の場も分離する。一方、葬式や正月、盆は座敷の数や位置に関係なく主屋1階で行なわれる。(図4参照)以下座敷の数毎に示す。

〔座敷のない町家〕儀礼・行事は主屋1階のみで行なわれ、2階は使われない。葬儀はミセノマのみで行なわれ、盆、正月の食事はナカノマで行なわれる。婚礼も1階で行なわれる。

〔座敷がひとつの町家〕座敷の位置が主屋1階にある場合、儀礼・行事は全て主屋1階で行なわれ、2階や離れで行なわれることはない。しかし座敷が主屋1階にない場合、座敷が2階にあれば婚礼、講はそこで行なわれ、座敷がヒヤにある場合には、そこでは講と法事が行なわれる。

下津井地区では、座敷がオクノマにあれば、そこでは婚礼と講が行なわれるが、葬式や、祭りの時の接待にはミセノマが使われる。さらに元旦(年とり)の食事や、盆はナカノマで行なわれる。また座敷が主屋の2階にあれば、婚礼や講、お七夜や初節句等の祝いがそこで行なわれる。また出産は座敷で行なわれない。

矢掛地区でも、座敷が主屋オクノマにあれば、全ての儀礼・行事が主屋1階で行なわれる。葬式は主屋の1階全室を続けて行なわれる。婚礼、法事、盆、講はナカノマとオクノマを続けて行なわれる。主屋1階に座敷がない場合は、婚礼は主屋2階の座敷か、ヒヤの2階で行なわれる。座敷がヒヤだけにある場合、そこでは法事、講が行なわれる。

〔座敷が2つの町家〕主屋の1階に座敷がある場合とない場合で、儀礼・行事の行なわれる場所が異なる。1階に座敷があれば、葬式、法事、盆、正月が主屋1階で行なわれるが、1階に座敷がなければ、法事は主屋1階以外のところで行なわれる。またヒヤの座敷があっても、儀礼・行事に使われた事がない例もみられる。

下津井地区では、座敷でないオクノマで講が行なわれる例がある。また、出産はヒヤで行なわれる。

矢掛地区で座敷が2つある町家は、そのひとつはオクノマで、他は2階座敷又は離れである。この時、ヒヤの座敷では儀礼・行事は行なわれない。法事は通常主屋1階で行なわれるが、1階オクノマの床の設備が置き床などで不備の場合2階で行なわれる。

〔座敷が3つ以上の町家〕座敷を3つ以上持つ町家では、座敷は1階オクノマ、ミセの奥の間、主屋2階、ヒヤ1階、2階に設けられているが、これらの使われ方は、2つの座敷のある町家とかわらず、ほぼ同じ座敷が、使用される。しかし、婚礼に際し結納、挙式、披露が座敷をいくつも変えて行なわれるなどひとつの儀礼の流れが、座敷を変えて行なわれる。またヒヤの座敷は通常、老夫婦の居室や接客のために用いられる。また、希に出産にも使われるが、そこが夫婦の寝室になっている場合である。

### 7-2 オクノマの使われ方

1列3室型平面のなかでも、オクノマが座敷の場合とそうでない場合は、町家全体の使われ方が異なる。即ちオクノマには座敷として使われる床の間を持ったもの、ガイドコロ(食事室)に使われる床の間のないもの、置き床がある等その中間のものがある。これは下津井地区に顕著であるが、オクノマが座敷の場合にはそこで講、法事が行なわれるが、ガイドコロの場合には盆、正月がそこで行なわれる。また、畳敷きで床の間のない部屋であっても、臨時に置床を設けて、座敷として使う場合がある。

オクノマがガイドコロの場合、その町家は1列2室型と同様な使われ方である。座敷の場合は1列3室型であり、中間的な使われ方をすることは、1列2室型と1列3室型の中間型ということができる。

### 7-3 通過儀礼・年中行事の相互関係

通過儀礼・年中行事は、前述のように定まった場所で行なわれたり、場所を使いわけて行なわれるが、場所の側から見るとそこで行なわれる儀礼・行事には一定の関係が見出される。

N 44 a 1列3室 (1座敷 矢掛)



図4 部屋の使い分けの模式の例

個々の町家のなかで、長い間行なわれて来た儀礼、行事の全体を現在採集することは困難なので、次の方法で相互関係を検討する。

①各調査家屋毎に、同一の場所で行なわれた儀礼・行事の関係、別々の場所で行なわれた関係を1組ずつ抽出しマトリックスを作る。(表3 A, B)この時次の3種類の関係が抽出された。

- ②他の儀礼・行事と分れて行なわれる関係(出産)
- ③特定の儀礼・行事とは同一の場所で、別の儀礼・行事とは分れて行なわれる関係(盆、婚礼など)
- ④同一の場所で行なわれたり、分れて行なわれたり関係が定まらないもの関係(法事)

②マトリックスから採集例の少ないものを除き、それぞれの関係をネットワーク図にあらわす。(表4, 5, 図5, 6)

(1) 相互関係の概要

〔出産〕 出産が行なわれる場所では両地区共に他の全ての儀礼・行事は行なわれない。小規模な町家ではナカノマが出産の場となるが、この場合は、盆、葬式と同一の部屋が使われる。

〔法事〕 矢掛地区では、法事は出産、盆、葬式との関係で分離、重複両者の関係があり定まらない。本2階のある町家でこの傾向が強い。下津井地区では採集例が少なく不明。

〔葬式〕 両地区共に葬式は婚礼と分離した場所で行なわれ。下津井地区では特に分離して行なわれる。矢掛地区

では分離しない例は多く見られる。殊に、2階のない型式の町家では葬式は分離せず、出産を除いて全ての儀礼・行事と同一の場所で行なわれる。

〔婚礼〕 下津井地区では全タイプの町家を通じ婚礼は他と分離して行なわれることが多い。また全般に2階に座敷、居室を持つ本2階を持つ町家ではこの傾向が強い。矢掛地区では本2階があると婚礼の場所は分離するが、2階がない場合には出産を除き他の儀礼・行事と同じ場所で行なわれる。また矢掛地区では講と重複した場所で行なわれる関係がある。

〔盆〕 ナカノマを中心に行なわれる、場所に固定されている行事である。下津井地区では全タイプを通じて、葬式とは場所を共有するが、他の儀礼・行事とは分離される。矢掛地区では、2階を持たない町家では出産の場所を除き同一の場所で行なわれるが、本2階のあるタイプの町家では、婚礼と分離した場所で行なわれる。

〔講〕 全体に定まった関係はない。下津井地区では、出産とは異った場所で行なわれる他は一定しない。本2階がある町家では葬式と分離して行なわれる傾向がある。矢掛地区では、出産と分離され、2階のないタイプの町家では、葬式・法事と同一の場所で行なわれる。本2階のある町家では、法事、婚礼と同一の場所で行なわれ、葬式、盆とは分離して行なわれる傾向がある。

〔その他〕

祝は、盆と同じ場所、即ちナカノマを中心に行なわれることが多い。

表3 A 通過儀礼・年中行事の相互関係—下津井地区—

	正	盆	講	祝	婚礼	死	葬儀	法
産	△△	△△△△	●	△	△△	□	△△△△	
法		△△△	△△△				△△△	
葬儀	△	△△△△	△△△△	△△△△	△			□△
死				△△				葬儀
婚礼	○△		△△△△△	△		△△△△△△	△△	死
祝	□		△△			□□□□	□□□□	婚礼
講	△	△△△△		△△	△	□□△△△	△	祝
盆	○△	△△△		△△△△	△	●	●	講
		△△△△	△△△△	△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	盆
		△△△△	△△△△	△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	正
		△△△△	△△△△	△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	産
正		盆	講	祝	婚礼	死	葬儀	法

表3 B 通過儀礼・年中行事の相互関係—矢掛地区—

	正	盆	講	祝	婚礼	死	葬儀	法
産		△△△△	○	△	△△	○	△△△△△	△△
法	△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△	△△△△△	△△
葬儀	△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△		葬儀
死				△△				死
婚礼	△	△△△△	△△△△	△△		△△△△△△	△△	婚礼
祝	△	△△△△	△△			△△△△△△	△△	祝
講	△△	△△△△		△△	△	△△△△△△	△△	講
盆	△△	△△△		△△△△	△	△△△△△△	△△	盆
		△△△△	△△△△	△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	正
		△△△△	△△△△	△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	△△△△△△	産
正		盆	講	祝	婚礼	死	葬儀	法

○ 0座敷型 △ 1座敷型 □ 2座敷型 ○ 3座敷型 △ 4座敷型 □ 5座敷型  
● 6座敷型 ● 主屋2階に居室をもたない町家 × 主屋2階に座敷をもたない町家

上段：同じ場所で行なわれる関係  
下段：別々の場所で行なわれる関係

死を迎える場所は採集例が少ないが、他の儀礼・行事から分離している傾向が見られる。

正月や年越しの食事の場所は採集例が少ないが、盆が行なわれるところと同じところがその場所となる。

(2) 地区別、町家の型式別による相互関係の相違

地区別に見た通過儀礼・年中行事の相互関係の傾向は次のようである。

下津井地区は全体に分離する関係が見られるのが特徴である。2階を持たない小規模な厨子2階の町家であっても婚礼と葬式、婚礼と盆は分離した場所で行なわれる。葬式と盆の関係は一定していない。出産の場所では他の儀礼、行事は行なわれない。2階に座敷や居室が設けられた町家では分離する傾向はさらに強まる。

矢掛地区では、儀礼・行事が同一の場所で行なわれる傾向があるのが特徴である。2階のない町家では、出産以外の儀礼、行事は全て同一の場所を共有して行なわれる。2階がある町家では、婚礼のみが分離して行なわれる。

次にマトリックスから、例数の少ないものを除外し、相互関係を結びつけ、まとめると、通過儀礼・年中行事が行なわれる場所のネットワークが示される。地区別、町家の型式別にみると次のようになる。

①下津井厨子2階—全体に例数が少ないが、出産、婚礼、葬式、盆の場所が分離していることが特徴である。正月、法事、講は採集例が少ない。(表4A, 図5A)

②下津井本2階—①の傾向とほぼ同じであるが婚礼の場所が分離される例がより多い。(表4B, 図5B)

③矢掛厨子2階—出産の場を除いて、婚礼、法事、葬式、盆、講には同じ場を共有する関係がある。(表5A, 図6A)

④矢掛本2階—2階のない型式の町家とは全く異なり、葬式と盆が行なわれる場所と、講と婚礼が行なわれる場所とに2分される。(表5B, 図6B)

以上をもとに儀礼・行事が行なわれる場所の相互関係をまとめると次のようになる。

①両地区、全形式の町家で、一定の関係を持っている儀礼、行事は出産、婚礼、盆、葬式の4つであり、講、法事は定まった関係を持っていない。

②2階のある形式の町家についてみると、両地区共に儀礼、行事は3つのグループに分かれている。それらは出産、盆と葬式(下津井では法事を含む)、婚礼(矢掛では講を含む)である。

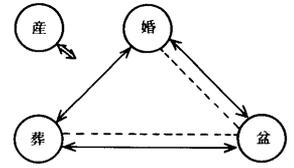
③2階のない形式の町家についてみると、両地区では全く異なる相互関係を持つことがわかる。下津井地区の町家は出産、婚礼、葬式、盆の全てが分かれる関係であるのに対し、矢掛では出産を除き全てが同じ場を共有する関係である。

表4・表5 通過儀礼・年中行事の相互関係

表4A 下津井地区厨子2階タイプ

	正	盆	講	祝	婚	死	葬	法			
産	1	0	2	4	1	0	0	2	3	0	1
法	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
葬	1	2	1	4	1	2	0	0	2	2	1
死	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
婚	2	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0
祝	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
講	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
盆	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

	共有	分離
強	====	↔
中	——	↔
弱	----	↔

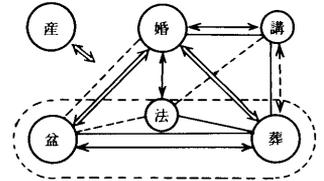


(正法講)

図5A

表4B 下津井地区本2階タイプ

	正	盆	講	祝	婚	死	葬	法				
産	0	1	3	1	6	0	9	2	1	9	0	3
法	6	0	3	0	3	0	0	3	0	1	3	1
葬	1	4	6	2	1	3	1	2	0	12	2	0
死	0	1	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0
婚	0	0	6	3	4	0	0	0	0	0	0	0
祝	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
講	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
盆	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

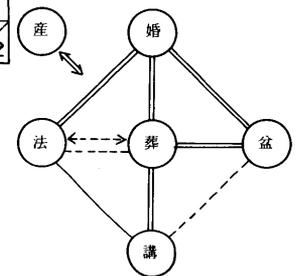


(正)

図5B

表5A 矢掛地区厨子2階タイプ

	正	盆	講	祝	婚	死	葬	法					
産	0	2	1	4	0	2	1	2	1	1	4	0	2
法	0	0	3	2	3	0	3	4	1	0	0	3	3
葬	1	0	6	2	5	1	3	7	2	0	2	0	2
死	0	1	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0
婚	0	0	6	1	5	2	3	0	0	0	0	0	0
祝	1	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
講	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
盆	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

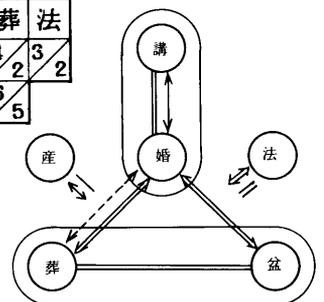


(正)

図6A

表5B 矢掛地区本2階タイプ

	正	盆	講	祝	婚	死	葬	法					
産	0	2	3	3	2	0	0	1	0	4	2	3	2
法	1	6	5	9	3	1	0	4	8	2	1	6	5
葬	2	1	13	0	3	6	2	0	14	3	0	0	0
死	0	1	3	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0
婚	0	3	0	13	8	3	0	2	0	0	0	0	0
祝	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
講	1	1	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
盆	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(正)

図6B

## 8. まとめと問題点

### 8-1 通過儀礼・年中行事と場所

主な通過儀礼・年中行事は町家の全ての部屋で行なわれ、そのいくつかは行なわれる場所が決まっている。盆がナカノマを中心に行なわれるなどである。

### 8-2 座敷数と使い分けの関係

床の間のある座敷を持つ町家や、複数の座敷を持つ町家では、通過儀礼や年中行事は場所をつかい分けて行なわれ、座敷数が増えれば、多くつかい分けられる。しかし3つ以上になっても余り違いはない。

### 8-3 オクノマの使われ方

年中行事・通過儀礼が、オクノマでどう行なわれるかを見ると、1列3室型の町家のオクノマには異なった性格がある。ひとつは床の間を持つ座敷で、盆や葬式が行なわれる場合で、他は床を持たずガイドコロとして元旦の食事に使われる場合である。また、床を持たなくとも置床を置いて座敷の使い方をする中間的な事例も見られる。

### 8-4 通過儀礼・年中行事の相互関係

行なわれる場所から通過儀礼・年中行事をみると一定の関係がある。同じ場所で行なわれる関係、別々の場所で行なわれる関係、定まらない関係である。

一定の相互関係を持つ儀礼、行事は、出産、婚礼、葬式、盆の4種類である。他方講、法事は定まった関係を持たない。

### 8-5 相互関係からみた町家

相互関係をまとめると、儀礼・行事はいくつかのグループに分けられる。それは、地域差、町家の形式の差があるが、およそ共通しており〔出産〕〔盆(法事)葬式〕〔婚礼(講)〕のグループである。

グループをつくる儀礼・行事を、生者の通過儀礼、死者の通過儀礼に分けると次のようになる。

〔生者の通過儀礼〕 出産、婚礼、(祝)

〔死者の通過儀礼〕 葬式、盆、(正月)、(法事)

〔その他〕 講

表-6 通過儀礼・年中行事のグループ

グループ	生死	行なわれる場所
○ 出 産	生	ヒヤ、オクノマ、ナカオクノ
益 (法事)	死	オクノマ、ナカノマ
	死	オクノマ、ニカイ、ヒヤ
葬 式	死	ミセ、ナカノマ、オクノマ
婚 礼 ( 講 )	生	オクノマ、ニカイ、ナカオク
	—	
( 祝 )	生	ニカイ、オクノマ
(正月)	死	ナカノマ、オクノマ(ガイドコロ)

注 矢掛地区の2階を持たないタイプを除く。

( ) はどちらか1方の地区、〔 〕 は採集例不足。

それぞれの儀礼・行事の場所を加え表6に示す。

表でわかるように相互関係から導かれたグループは概ね生の通過儀礼と死の通過儀礼に区別されていることがわかる。この関係は2階を持つ町家で著しい。

### 8-6 地区別の相違と問題点

儀礼・行事の関係性を下津井地区、矢掛地区で比較してみると、本2階を持つ町家では似た関係であるが、2階を持たない町家では両地域は全く異なる関係である。即ち、下津井地区では分離性が高いが、矢掛地区では合一性が強いという違いである。

この相違は、場所の使われ方の違いに原因している。下津井地区では、ひとつひとつの部屋を独立させて使うことが多いが、矢掛地区では2室以上の部屋を連ねて使うからである。例えば葬式はその典型であるが、下津井ではミセノマひとつに祭壇と焼香台を設けて行なわれるが、矢掛では祭壇はオクノマに焼香台はミセノマにと離し、1階全室を連ねて行なわれる。

両地区の町家の平面を比較してみると、下津井地区の町家は小型で、室数も少ない。一見1列3室型に見えるが、実際はオクノマがガイドコロで、1列2室の平面と同様である。

これに対し、矢掛の町家は大型で、オクノマはほとんどが座敷である。従って、両地区を比較した時、小規模な町家では場所の分離性が高く、大規模でより完成された町家では分離性は低くむしろ重ね合わせて使われるということになる。

両地区の2つの使われ方が行なわれる町家を比較する時、次の点が問題となる。

①下津井地区の小規模な町家の使われ方は、農家の使われ方と近いことが観察されるが、両者にどのような関係があるか。

②矢掛地区の町家の部屋を連ねて使う使い方は、附近の農家には見当らず、むしろ武家住宅に近い使い方と思われるが、周辺地区の町屋とはどう関係するか。

地区周辺の農家については、町家と同様な儀礼・行事が行なわれていること、その時同様に出入口の区別が行なわれていることが観察されており、町家の空間構造を解明する上で今後の調査の成果が期待できる。

### 〈主な参考文献〉

- 1) 岡山県史 民俗編Ⅰ, Ⅱ
- 2) 矢掛町史 民俗編
- 3) 岡山民俗事典 岡山民俗学会編 S50
- 4) 岡山民俗 特集号 S53
- 5) 岡山民俗 創立30周年記念特集号 S54
- 6) 岡山民俗文化論集 岡山民俗学会 S56
- 7) 岡山県の民家 鶴藤 鹿忠 S51
- 8) 倉敷市下津井地区歴史的景観調査報告書 S60
- 9) 矢掛町矢掛宿伝統的建造物群保存対策調査報告書 S62